

# 巻 頭 言

会長 阿 閉 進

富山県高等学校情報教育研究会の会員各校の皆さまには、日頃から本研究会の運営にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。皆さまには、それぞれの学校において、様々な形で情報教育に熱心に関わっていただいていることと思います。

本年度の研究発表大会では、日頃の授業実践の研究に加えて様々な問題提起や探究科学科における情報の授業展開なども発表の一部で触れられており、大変参考になった発表でした。また、今年度の全国大会(京都)の報告から全国の動静等も窺い知ることができました。そして、三鷹中等教育学校主幹教諭能城茂雄先生からは、豊富な資料にもとづき興味深い実践的な内容のお話をいただきました。各校でもこれらの成果を伝えていただき、日頃の学習指導や教材研究等に活かしていただくことを期待しています。

ところで、最近学校の情報化はめざましいばかりです。小学校段階で既にプレゼンテーションを経験している児童の数は増加しているといえます。さらに驚くことには、今年度、佐賀県武雄市では教育利用のために、市内の小中学生全児童・生徒4000人にタブレット端末を市が配布したとのニュースがあり、佐賀県自体も《2014年度から全ての県立高校入学生にタブレット端末を購入させる》ことを決めたと新聞報道されています。凄まじい速さで情報化が押し寄せているようです。

今の時代、物心がついた時にインターネットが身の回りにあったか否かで決まるという「デジタルネイティブ」という言葉に象徴されますように、日常的にコンピュータに触れ、スマートフォンや携帯型情報端末を使っている児童・生徒は少なくありません。特に、ここ1～2年での中高生の携帯電話からスマートフォンへの普及はめざましいものがあります。富山県高等学校生徒指導推進研究委員会の抽出アンケート調査によりますと、高校1・2年生の90%近くの者がスマートフォンを所持している一方で、ネットの世界で自分自身を守るための知識やスキル・情報モラルについては、しっかり身につけているとは言い難いようです。実際、富山県内でもLINEなどのSNSのアプリを使用した犯罪や問題行動が発生していますし、不適切な写真等をネットにアップして注意を受けている高校生も少なくありません。

このような社会だからこそ、高校生には「情報社会に参画する態度」や「情報の科学的な理解」、「情報活用の実践力」などを一層バランスよく身につけさせなければなりません。そういった学習の中心となる共通教科「情報」の果たす役割が、今後ますます重要になっていると思います。

終わりになりますが、いつもご指導・ご支援等をいただいております富山県教育委員会県立学校課の野崎指導主事、研究発表大会における研究発表などを快く引き受けていただいた先生方、並びに情報部会をお世話いただいている役員の先生方に感謝申し上げますとともに、今後の高教研情報部会の一層の発展を祈り、ご挨拶といたします。